会 議 録

| 会議の名称 | 小金井市地域公共交通会議 |
|---------------|---|
| 事務局 | 都市整備部交通対策課 |
| 開催日時 | 平成23年7月20日(水)午後3時~5時 |
| 開催場所 | 小金井市市民会館(萌え木ホール)A会議室 |
| 出席者 | 小金井市地域公共交通会議委員及び事務局職員 (別添名簿のとおり) |
| 傍聴の可否 | 可 · 一部不可 · 不可 |
| 傍聴者数 | 0 人 |
| 会議次第 | 1 あいさつ 小金井市長 佐藤和雄 2 委員の紹介 3 市事務局の紹介 4 議 題 (1) 会長・副会長の選出 (2) 小金井市コミュニティバスの経過について (3) 小金井市コミュニティバス市民・利用者アンケート調査の結果について (4) 貫井前原循環の早朝便及びルート延長に対する運行事業者の提案について (5) 東町循環の始発・終発時間の拡大について (6) 野川・七軒家循環の乗り残しについて (7) その他 [資料] (1) 小金井市コミュニティバスの経過 (2) コミュニティバス市民・利用者アンケート調査の結果について (3) 貫井前原循環、東町循環、野川・七軒家循環の提案及び報告について (4) CoCoバス、CoCoバス・ミニ年度別収支表 (5) 小金井市地域公共交通会議委員名簿 (7) CoCoバスパンフレット |
| 発言内容・ | 議題(1) 今長・副今長の選出について |
| 発言者名 (主な発言 | 会長・副会長の選出について |
| 要旨) | 議題(2) |
| | |

小金井市コミュニティバスの経過について

市 資料(1)の説明

議題(3)

小金井市コミュニティバス市民・利用者アンケート調査の結果 について

市 資料(2)の説明

前回の会議でも要望したが、自由意見欄のまとめがない。ま A委員 とめがなければ、報告書のデータを照合することができない。

> 今回の調査では、様々な意見を集約しており、説明資料とし てわかりやすくまとめている。次回の会議では提出する。

議題(4)

貫井前原循環の早朝便及びルート延長に対する運行事業者の 提案について

市 資料(3)の説明

> 貫井前原循環の早朝便については、運賃の格差を考えると自 社路線への影響が大きい。弊社としては、自社路線を有効活用 することで対策をとっていきたい。

> 新町二丁目北が始発バス停なのか。また、新設案のルートは 朝のみ運行するのか。

> 新町二丁目北が始発バス停である。新町二丁目北を始発バス 停にすることで、貫井団地付近の需要に応えたい。新設案のル ートは、朝のみで考えている。

> 時間帯については、自社路線の回送バスを有効活用するの で、朝の運行に限られる。また、今回の代替案は、常時運行す る路線バスではないので、役割としては南北に走る路線バスの 補完である。

> この代替案は、根本的な解決策にならないと思う。要望が多 い貫井団地の住民からすれば、常時バスを運行してこそ利用す ると思う。

> 新規バス停については検討中ということであるが、これは朝 のみ使用するバス停なのか。

市

B委員

市

A委員

B委員

A委員

C委員

市

当該バス停は朝のみであり、近隣住民の了承を得たうえで設置可能なので、現時点で検討中という表記にした。

D委員

現在、武蔵小金井駅に向かっている回送バスは、6時台と7時台で2本ずつなのか。

B委員

6時台は2本だが、7時台は現時点で1本のみである。やはり、通勤時間帯はバスの稼働率が高く、新たに車両を購入できる状況でもないので、今後調整して1本増発したいと考えている。また、帰りの便については、バス停の設置場所から検討しなければならず、関係機関との協議が必要である。弊社としては、まず朝の便から実施することで需要を探り、今後対策をとっていきたい。

D委員

最終的な確認であるが、京王バスの代替案は市の財政負担を 増やさないという理解でよろしいか。

B委員

あくまで弊社のバスを有効活用するので、自治体の補助金が 増えることはない。

市

貫井前原循環の早朝便については、以前からスクールゾーンを避ける形で新ルートを検討していたところである。しかし、路線バスの影響等を考慮すると、京王バスの代替案で対応することが公共交通の視点からも望ましいと考えている。また、延長ルートについても、現行の路線バスルート上に新規バス停を設置すれば一定の要望に応えられるので、まずは代替案を実施することで需要の変化を探っていきたい。

D委員

路線バスの有効活用は、市の補助金を増やさずに市民の要望 に応えられるメリットがある。次回の会議では、今回の代替案 を再検討した結果を議題とする。

E委員

今回の代替案は、駅への直行便のような運行であると思うが、行きの便を手厚くするだけでなく、帰りの便を検討することも考慮していただきたい。

議題(5)

東町循環の始発・終発時間の拡大について

市

資料(3)の説明

A委員

運行時間を拡大するということは、それだけコストもかかる。成果が出なければ事業を継続しないといった意思表示は、

事前に示しておく必要がある。

市

市民及び利用者に対しては、事前にチラシ及びポスター等の 媒体を利用して、継続の条件を示していきたい。

D委員

試験運行の目的を事前に周知しなければ、試験運行の意義が損なわれる。市民に伝えるうえでは、「乗車人数が平均何人以上であれば本運行を実施する」といった条件を示す必要がある。

市

市民に周知する継続条件の内容については、今後慎重に検討していきたい。

F委員

各社で勤務形態も異なるので、あくまで弊社としての意見であるが、ひとえに運行時間を拡大するといっても、乗務員が2交代制になれば、人件費が2倍になることも考えられる。今回の2~3時間の延長は、6時間労働を8時間労働に延長するのとは性格も異なるので、このような意見も踏まえたうえで検討していただきたい。

D委員

東町循環については、以上の意見を踏まえたうえで試験運行を実施し、次回の会議で試験結果について検討する。

議題(6)

野川・七軒家循環の乗り残しについて

市

資料(3)の説明

G委員

乗り残しについては、私自身も何度か経験がある。個人的に も早く解決してほしい。

D委員

運行事業者として、何か意見はあるか。

H委員

この問題については以前から検討を重ねてきたが、現行の30分間隔を20分間隔するといった措置は、安全面で危険が生じる。

D委員

要望が多いのは好ましいことであるが、「乗れない」という印象が定着すると、今後の利用状況に支障をきたす。その状況からも優先度の高い問題である。現行のルートでは、道路が狭隘な箇所もあり、これ以上速度を上げて運行することは難しい。また、ルートを変更すれば利用できなくなる地域が生じることもあり、慎重に検討しなければならない。会長としての立場ではなく、一委員として意見を述べるとすれば、乗り残しの

問題は、東町の試験運行よりも優先度の高い問題であると思 う。 事務局では、他に対策を立てているのか。 F委員 新たに車両を購入して、混雑時の時間帯に応じて15~20 市 分間隔で運行することは、一つの案として考えられる。ただし、 車両を購入すると、年間1、000万円程の経費が見込まれる。 野川・七軒家循環は、ミニバスで運行しているため、ほぼ満車 の利用率でも年間1、500万円程の赤字が出る。そうした理 由からも、年間2,500万円の経費を毎年見込んだうえで車 両を購入するのは、非常に難しい判断である。 ある自治体では、タクシーを予備車として申請している。た I委員 だし、小金井市とは事業規模も異なるので、あくまで参考意見 として検討していただきたい。 只今の意見を含めて、再度検討する。 市 D委員 何らかの形で解決しなければ、今後の野川・七軒家循環のあ り方に関わってくる。車両購入で経費がかかるのであれば、運 賃の値上げも議論の対象になると思う。ただし、まずは委員の 方々が知恵を出し合い、建設的に議論をしていくことが解決に 向けて重要である。 以上

その他